

## 気もちよく作業ができました！

「先生！お手伝いします！」

そう言いながら三年の女子生徒が私のもとに走ってやってきました。彼女たちは手に熊手（くまで）をもっています。刈った芝を集めていた私の姿に気付いて、すぐに行動に移したようです。

駆けつけてくれたのはA・Sさん、O・Yさん、N・Wさん、そして、M・Nさんの4名でした。雨が降っているか降っていないかの微妙な天候でしたが、そんなことはお構いなしに、四人は私の周りに集まりました。

「ありがとうね。ところで、君たちは、夜はなにで寝ているの？」

「Tシャツと短パンで……。」

「違うよ、違うよ。何を掛けて寝ているかということだよ！（笑）」

私の尋ね方が悪かったがために、こんなとんちんかんな会話になってしまいました。彼女たちの手伝いは、こんな笑いのコミュニケーションからスタートしました。

「今冬の厚い布団をかけて寝たらどう？芝生は今その状態なんだよ。そんな布団をかぶっていたら、芝は苦しがつてやがて死んでしまいかも。だから、この熊手で、地面がみえるくらいに、刈った芝をかき出してね。」

これを「サッチング」と言います。刈った芝は取り除かないと芝の根元に入り込み、夏場の熱い掛布団となって芝にダメージを与えます。地味で大変な作業ですが、芝にとってはとっても大切ものです。

彼女たちは自分たちがこれからやろうとしていることの意味が理解できたようで、すぐさま散らばって手を動かし始めました。そして、熊手を使って、何度も何度も同じところを掻いてくれました。太陽は出ていませんでしたが、結構力を入れて熊手を前後に動かすことは重労働だったこととでしょう。許された時間の中で、彼女たちは一生懸命に取り組みました。

主体的に手伝う彼女たちのその姿に、私は大きな喜びを感じました。そのうえに、作業の意味や重要性がわかって芝のために黙々と熊手を動かす彼女たちの素直さに感動しました。

彼女たちがいなくなってから私も私は作業を続けましたが、彼女たちのおかげで、その後もとても気持ちよく取り組むことができました。ありがとうね！（八月三十一日 記）